

「HSK 季刊わたぼうし」 第62号

発行者:わたぼうし連絡会

発行日:2003年(平成15年) 11月14日 '03秋号

第62号のテーマ

「グループホーム」視察旅行記

「優勝」の 二字に大阪 大さわぎ

比呂雪

この機関紙は障害のある人、ない人が自由に考えを出し合い、主義・主張を越えて、お互いを理解し合う中から共に生きる豊かな社会を作っていくことを目的として発行しています。

行程スケジュール

1日目 青山彩光苑－和倉温泉駅－大阪駅－自立支援センターOSAKA－長居ユースホステル－身体障害者グループホーム「ほんわか」－自立支援センターOSAKAで宿泊。
2日目 自立支援センターOSAKA－東住吉教会－自立生活センター・ナビ－身体障害者グループホーム「とんとんハウス」－大阪駅－和倉温泉駅－青山彩光苑

はじめに

6月16日・17日にボランティアとともに大阪の身体障害者グループホームと自立支援センターの視察に行ってきました。

今回私がなぜ大阪へ行って来ようと思ったかといいますと、3月に青山彩光苑の利用者であるMさんが行って来られて、話を聞いているうちに自分も行って確かめたいと思ったからです。彼の生き生きとした話の中に、「自分も施設を出て自立生活をしたい」という思いが伝わってきました。

彼からいろいろ話を聞いているうちに、自分も行きたいと思ったのですが、ついて行ってくれるボランティアがいない、と考えてしまいました。そこで、いろいろと考えたりしているうちに、あるNさんが浮かんできました。

Nさんに「ボランティアになっていただけない？」と聞いてみましたら、「5～6月の月、火曜日なら良いよ」と言っていたので、3月にMさんが利用した「自立支援センターOSAKA」を紹介していただき、「自立支援センターOSAKA」のSさんとメールのやりとりをしてスケジュールを決めていきました。

1 出発

さて、出発の当日が来ました。朝の身支度をすませて、移動サービス業者「あかり」の車に乗り、和倉温泉駅に向かいました。駅に着いてみるとNさんがもうすでに駅に来ていました。サンダーボードの指定券を見ると座席が車両の真ん中の方だったので、移動が大変だと思い、駅員さんに相談をして出口の方に変えてもらいました。

列車がホームに入り、持ち運び式スロープを使い、列車に乗り込みました。パンとコーヒーで朝食を取りながら車窓を眺めていました。Nさんは疲れているのかぐっすり眠っていました。

もうすぐ大阪駅だ。Nさんも目を覚まし、荷物を下ろして降りる準備に入りました。大阪駅についてホームに降りても、迎えの人がいなかったのが心配でしたが、ホームの端からTシャツ姿の自立支援センターOSAKAのSさんが駆けつけてきました。お互いに挨拶を交わし駅に入っていました。

私の介助をしてくれたSさんは、ホームヘルパーの資格を持った自立支援センターOSAKAの職員です。私の介助は無料ではありません。1時間1,500円で契約を行う有料サービスです。移動・着替え・食事介助・おむつ交換・入浴介助等のサービスが受けられました。

2 大阪駅

私たちは昼食を取るために大阪駅を出て駅前のショッピング街に入りました。ショッピング街に入ると障害者の方がいる、いる、車いすの子供を連れた親子を見ました。七尾の町で見ても、みんな青山彩光苑の利用者ばかりで、他の障害者は外に出ていないように思われます。

昼食はラーメンを食べながら、Sさんといろいろなこと話したことの中で、身体障害者グループホームは障害者自身が自分たちの生活も守るために、自分たちで考え、必要なことは社会や行政に要求し、戦って勝ち取ったものと、言っておられました。

私もいろいろな障害者団体の運動に参加したことがあります。自分たちの要求を通すまで頑張ったことがあるか？ というと、「ない」としか答えられない。どっぷりと施設に依存している自分が情けない、と思っています。そのようなことをしている団体は、過激な団体だから良くない、と施設職員や障害者の親から教えられてきたので、あまり参加してこなかったような気がします。

3 初めての地下鉄・エスカレーター

昼食も終わり、JR大阪駅（地下鉄の梅田駅）から地下鉄御堂筋線・四ツ橋線に乗り、浪速区敷津にある自立支援センターOSAKAに向かいました。私は生まれて初めて地下鉄を体験しました。平日の日中だというのに満員でした。

地下鉄はJRと違い、障害者と介助者が2人まで運賃が半額です。しかし、障害者はフリーパスで乗れるということです。フリーパスをしても、きちんと介助は受けられました。（※のSさんの文章を参照）

※自立支援センターOSAKAのSさんの補足

地下鉄ですが、大阪市内在住の障害者と高齢者は大阪市営の地下鉄・バスの無料パスかタクシーのチケットどちらかを申請すれば受けられます。介助者も2名まで無料です。一応、規則では改札でそのパスを提示しなければなりません。たいていの駅員さんがチェックせずに通してくれます（ときたま提示求められます）。なお、大阪市外の方は障害者手帳の提示で障害者と介助者2名まで半額切符×人数になります。無料パスがあるものと見なしてもらっただけで、結果的には無賃乗車ですが、やはり無賃乗車という言葉だけですと差し障りがあるかな…。

地下鉄を降りてから街中へ出る方法として、エレベーターがないところではエスカレーターを使いました。私は車いすのままエスカレーターに乗られるのかと思いました。もちろん、このエスカレーターが設置されたのも、障害者自身が運動をしたから、と言っておられました。

エスカレーターのところにある呼び出しボタンを押し、駅員さんを呼び出し、エスカレーターが車いす乗り場がある階段が来たら止めて、車いすと駅員さんが乗って上り下りをするのです。怖いな～、と思いましたが、乗ってみると結構楽しかったです。

4 自立支援センターOSAKA

地下鉄大国町駅から大阪市街地奇歩きながら、浪速区敷津東にある自立支援センターOSAKAに到着しました。二階建ての建物でした。

この支援センターは障害を持つ人がいきいきと暮らせるよう、在宅生活をしておられる方への介助派遣、施設の方や遠方から来阪される方のガイドヘルプ、リフト車での送迎サービスが行われている支援センターでした。

私はここを訪れて思ったことは、施設のように利用者・職員という関係ではなく、お互いが助け合って運営を行っているように思いました。障害者自身が電動車いすに乗りながら、利用者のサービス計画を作ったりしていました。これは私たちの施設にはない、と思いました。どうしてもサービス提供は健常者、サービスを受けるのは障害者になってしまうのですね。おかしいでしょう？ お互いが助け合ってサービスを提供していく時代が来ていると思いました。

もちろん、介助の提供は障害者ができるわけではありません。きちんとホームヘルパーの資格を持った健常者が行っています。しかし、障害者にはサービス計画を作成したり、ヘルパーの派遣などの調整はできると思いました。

5 身体障害者グループホーム「ほんわか」

私は2つのグループホームに行ってきました。「グループホーム」とは、障害を持つ人が何人かで集まり暮らしを共にします。そこでは支援者に24時間のサポートを受けながら「自分は何をしたい？」「何を食べたい？」「そのためにはどんな介助が必要なのか？」を自分で選び、決定します。そしてその経験を積み重ねながら、障害を持つ仲間とともに自立生活を実践しています。「自立」とは、自分で何でもできることではなく、障害があっても何らかの、サポートを受けながら、自分らしく生きることです。

グループホームでは私より重度の障害のある人が、古い民家やアパートを借りて自立生活を送っていました。一つのグループホームに3～4人で住んでいますが、個人の部屋もあり、生活費や電気代などの公共料金もみんなで分割して支払いながら生活していました。自立生活と言っても、ひとりで何でもできるのではなく、常時介護が必要な方たちばかりでした。ここにいる人たちは私より重度なのに、生き生きと暮らしていました。施設のようにお膳立てができていて、何もしなくても食事が出てきたり、入浴ができるわけではありません。「障害者は施設」という考え方自体が、障害者の自立を妨げているのだと思います。自分の生活は自分で決めることが大切です。施設に入所していれば楽に生活を送ることができるのに、なぜ、このような苦勞をしてまでも、自立生活を望むのか？と思われ方もおられるかと思いますが、でも自分で何もできなくても、自分の生活を自分で決めること自体、施設生活の長い僕らにとっては未知の体験で、自分で決めることが当たり前の人たちにはわからない喜びを、一つ一つに一日一日に感じることでできているのだとグループホームで暮らす人たちの笑顔を見て思いました。そして何ともうらやましくさえ感じました。

その他の生活状況、生活費についてはアンケートに答えていただいていますので、それを掲載します。

身体障害者グループホーム「ほんわか」でインタビュー

先日、身体障害者グループホーム「ほんわか」を訪問させていただいたときに、質問をおいて来ましたら、回答を頂きましたので、掲載させていただきます。特に、脳性麻痺の方が施設から出て地域で生活することについて質問をしました。

Q1 家族の反対。反対の理由を教えてください。どうやって説得をするのか。

A 家族の反対理由としては、施設にいと家族が安心して暮らせるという理由が一番でした。

説得については、施設生活の管理された単調な生活の現状を話し、地域で生活することの制度や生活費について説明し、親にわかってもらった。また、いくら重い障害をもっても地域で生活している人たちの例をあげたり、24時間体制の介助を身体障害者グループホームが保障していることを説明した。

Q2 施設から出て地域で生活することへの不安の解決方法。不安な時はどうしてますか？

A 施設を出るときに不安は感じなかった。現在、身体障害者グループホームの生活で不安なことがあれば、みんなで相談し解決している。

Q3 生活費のやりくりなどを、聞きたいと思います。家賃、ボランティア、光熱費、買い物、介護料、などを差し引いてお小遣いはどのくらい残りますか？

ヘルパーなどのサービスを利用した時のお金は？ どのくらい利用できますか？

A ほとんど全員の方が、生活保護を受けています。年金+生活保護+特別障害者手当(年金+特障は収入認定を受けます)

生活保護を受けているため、家賃は補助があります。ボランティアは利用していません。水光熱費は住む物件や消費量によるでしょうから参考にならないと思われます。介護料は支援費と生活保護の他人介護料。ざっと計算して残るお小遣いは、人それぞれでしょうが、大体9万くらいだそうです。

うちの身体障害者グループホームは、24時間介助の保障をしています。個人が自己負担でヘルパーを利用することはありません。

Q4 年金以外の収入は。補助金、etcをもらえますか？

A 年金+特別障害者手当+生活保護

Q5 障害の程度は？ 最も重度な人はどのような方？

A ほとんどの方が脳性まひで24時間介助の必要な重度障害者です

Q6 このグループホームを最初、どのように立ち上げたのか？

A 障害者運動の中から、大阪市に身体障害者グループホーム制度ができました。私たちは、作業所が母体となって、大阪市と協議の上、身体障害者グループホームを建設してきました。

7 自立支援センターOSAKAで宿泊。

身体障害者グループホームほんわかの見学を終えて、地下鉄に乗り自立支援センターOSAKAに戻りました。自立支援センターOSAKAに帰って来て本当に安心をしました。自立支援センターOSAKAには宿泊体験室があり、1泊1,500円で宿泊ができました。

この日はセンターの給料日でした。給料日には夕食会が行われるというので、私も仲間に入れていただきました。焼き肉、ウインナー、ラーメンなどたくさんのごちそうがありました。

ここで重度の脳性麻痺の男性が、手が使えないために、足でパソコンを操作しているのを見させていただきました。これは青山彩光苑の利用者の方に紹介したいと思いビデオに撮影してきました。この男性は日常生活の介助を受けながらも、自立支援センターOSAKAで働いておられました。

食事会の終了後、自立支援センターOSAKAのSさん、Hさんの介助を受けながらシャワーを浴びて宿泊体験まで宿泊しました。宿泊体験室とは自立を目指す障害者の方が、実際に日常生活のプログラムを作成し、料理を作ったり、介助者を見つける方法、外出方法など、自立生活を実際に体験し、自分に不足な点はどういうことかを知るための体験施設です。

その宿泊施設で宿泊をしましたが、都会に来るとテレビのチャンネルを見ることに興味があり、地方では見られないローカルニュースや番組をリモコンで探しました。特に石川県では見るこたができないテレビ東京系のチャンネルを見たり、天気予報が福井県から四国までの広範囲であることに驚きました。朝はどの局も4時頃から放送が始まっていました。テレビを見に行っただろうか？ 目的が違うだろう。

8 東住吉教会

8時頃に介助者のHさんが起こしに来てくれました。おむつ交換、着替え、洗面も終わって3階から1階に下りて朝食を取り、2日目の最初の目的地東住吉キリスト教会へ行きました。

教会に向かう道を歩いて、一歩街の裏に入ると大阪と思えないほど、静かな町並みがありました。七尾とほとんど変わらない田舎のようでした。教会も静かなところにあり、驚きました。本当に大阪か？ と思いました。教会を牧師婦人に案内をしていただき、おいしいお菓子をいただきました。

何故か、七尾聖書教会の古い建物のように2階に礼拝堂があり、懐かしく思いました。高齢者向きに階段昇降機ついていました。ここにも小さなバリアフリー対策がありました。最後に牧師婦人にお祈りをしていただき、小さな交わりをして教会を後にしました。

9 自立生活センター・ナビ

東住吉教会の視察を終えて、今回の視察旅行の一番の目的地である東住吉区今川にある自立生活センター・ナビに行きました。

なぜ、自立生活センター・ナビへ視察することになったかと言いますと、昨年、自立生活支援センター富山主催の支援費制度に関する講演会のテープ起こしをしました。そのときの講師が自立生活センター・ナビの尾上浩二さんだったのです。そのようなこともあり

自立生活センター・ナビに行って尾上浩二さんにお話を伺いたいと思い、代表の南光龍平さんに連絡を取り訪問しましたが、尾上浩二さんは多忙で全国を飛び回っておられる方なのでお会いすることができませんでした。

そこで、代表の南光龍平さんに会うことにして訪問をしました。この自立生活センター・ナビは昭和50年代、全国的に活動が活発だった「青い芝の会」という障害者連動の団体から生まれたのです。

南光さんも語っておられましたが、以前はかなり過激な運動を行ってきたそうです。バス、列車、地下鉄に車いすで乗せろ、という運動など行ってきたようです。その結果、大阪市内のほとんどのJR、地下鉄の駅にはエレベーター、エスカレーターが整備されてきたということです。その他、いろいろなことを南光さんにインタビューしましたので次号に掲載していきます。

10.身体障害者グループホーム「とんとんハウス」

自立生活センター・ナビで昼食を済ませて、最後の訪問地身体障害者グループホーム「とんとんハウス」に向けて歩きました。近いと思っていたけれど、結構歩きました。Nさんも疲れて来ているようでした。ごめんね、Nさん。

昨日の身体障害者グループホームは女性ばかりでしたが、この「とんとんハウス」は、男性3人の身体障害者グループホームでした。この日は入居者の方は作業所に通っているために、話を伺うことはできませんでした。

玄関には昇降機がついていて、電動車いすでも家の中に入れるように作られていました。私もこの昇降機を利用して「とんとんハウス」に入りました。

この「とんとんハウス」が設立されたキッカケは、一緒に活動していた仲間のお母さんが倒れて、施設に入らなければいけないようになったのです。ずうっと在宅でお母さんと住んでいましたが、お母さんも心臓が悪く、お母さんが横で寝ている状態のところ、重度障害者の介護のため、他人が家に入るといって気遣いが多くなり、彼は施設に入ってしまった。このことがキッカケで、施設ではなく地域で生活したいという思う方々が集まり、できた身体障害者グループホームでした。

11.旅を終えて

今回、大阪市内を2日間にわたり、身体障害者グループホームを視察しました。私が思っていた身体障害者グループホームのイメージとは違っていました。それは始めから立派な建物があるのではなく、自分たちで住む建物、介助者を探し、自分たちの生活を作り上げることの大切さを学びました。

施設の場合、建物・食事・介助者は用意されています。自分たちで何も考えなくても生活ができます。支援費制度になって自分の生活は自分たちで作りに上げていくといいますが、施設の場合は与えられるものを受けるといって受け身の立場は以前と変わっていないと思います。自分の生活を作り上げていくということをしなくても、生活を送ることができるのです。

自分で明日の介助者を心配する必要はないし、食事も与えられるものを食べていけば良いのです。これで良いのでしょうか？ 一度しかない人生を考えてみる必要があると思

ます。

支援費制度によるヘルパー利用時間の上限が設けられ、身体障害者グループホームでの生活が難しくなっていることは現実です。しかし、だからといって施設に閉じこもり、甘い生活を送っていてよいのでしょうか？今回の視察を終えて、施設から出て自分の生活を自分で決める生活を送ることの大切さを学びました。

最後に、身体障害者グループホームは現在の法律では、老人・知的障害者のグループホームのように認可は受けられず、助成も受けることができません。日本では大阪市と横浜市だけが認可を受けられるということです。

恒例・東山春充氏2004年カレンダー販売のお知らせ

毎年、『自立』を達成する目的の一つとして口にペンをくわえてかいた絵と文字だけを載せたカレンダーの販売をしています。そんなカレンダーの販売を始めてから今年で7回目となりました。(カレンダーのサイズは縦70センチ、横50センチ。一枚の価格500円。)

◆◆◆企業向けのカレンダー◆◆◆

企業向けとして僕が口でペンをくわえてかいた絵と文字だけを載せたカレンダーに企業名をお入れして最低100枚で買い取っていただけたらと思います。(カレンダーのサイズは縦70センチ、横50センチ。1枚の価格700円。)

<備考>

このカレンダーの売上金で電動昇降付きのリフト付きワゴン車を買えるといいなあ…こんな大きな夢をもっています。

絵の題材について

僕の町の秋祭りでは天狗と獅子が喧嘩を演じた獅子舞を太鼓と鐘の音に合わせて夜遅くまで振り続けます。

獅子は富山県の越中獅子なので振りが激しいといった特徴がある獅子舞です。全部の型を練習して体で覚え込んでしまうので太鼓の音で体が動くと言っても良いくらいなんですよ。

年々、若者が減ってしまい獅子舞を存続することが難しくなってきました。そしてなによりも20歳の秋祭りでは天狗として獅子舞を振っていましたが、その1ヶ月後の怪我が原因でベッドの生活となってしまった大きな現実があります。このようなことがあって、僕にとっての獅子舞を「永遠の魂」へと成長させました。それが絵の題材となったキッカケです。

第12回全国ボランティアフェスティバル石川はくい福祉まつりの会場にて

注文される|場合は…

〒925-8506 石川県羽咋市鶴田町亀田17番地

羽咋市老人福祉センター内

社会福祉法人・羽咋市社会福祉協議会

羽咋市ボランティアセンター

tel : 0767-22-6231 fax : 0767-22-6189

皆さ～ん、買ってね。(*^-^*)

第12回全国ボランティアフェスティバル石川

「第12回全国ボランティアフェスティバル石川」七尾会場へ出席の感想

七尾市・叶田 秀子

(NPO法人あかり代表理事)

出席と申しましても一部分しかわかりません。勤務の都合でなかなか時間が取れません。まず、11日の交流会出席からお話をいたします。会場は和倉温泉「のと楽」、PM6:00～240名強の出席者の方でした。全国からのボランティアの方がお見えなのか？ と思いましたが、ほとんどが七尾・鹿島の近郊の方、県内の根上の方が多いようでした。もっと交流があるのかなと思いましたが、各テーブルでの交流だけのように感じました。それでも皆さんはボランティアに熱心な方なののでしょうか、それぞれに交流を図る方もいたと思います。

交流会が終了し、「さあ、帰りましょう。」と玄関に向かい、ヒョット売店に目を向けると同級生の方が売り子としていたのです。そこで、お土産を求めている方に失礼と思い、「同級生です。」と、「アラッ」お話をし、お互いに笑いながら話をしていると、なんと交流会に出席の秋田県からの方と熊本県からの方でした。「七尾は初めてですか？」と意気投合し、七尾の街で一杯やり直すことになり、3人で居酒屋へ。飲むほどにボルテージが上がり、本音のボランティアとはこうなんだとになり、貴重なお話がお聞きできました。あとはお決まりのカラオケです。秋田のTさん、植木等の歌で題名は？ですが、楽しい歌い方で笑いました。熊本のNさん、おとなしい方で歌もお上手です。1時間30分の時間があっという間に過ぎ、10時でお開き！ お勘定は3名で3千円！ あまりの安さに驚かされていました。帰りのタクシーの方が高いようです。ゴメンなさい！

さて、12日のサンライフでのフェスタですが、朝からの小雨、心配しましたが10時頃からその雨も上がりよかったです。仕事の関係で1人の身体障害者の方を会場まで移送をいたしました。一失礼なのですが、かなり重度の身体障害者です。それでも8時30分から移動をし、NPO法人「このゆびと～まれ」の理事長のお話が聞きたいと待つこと1時間、その間、私はまだ他の仕事がありますので、彼を一人にし、ボランティアスタッフの方をお願いをしまして席を離れました。11時30分に彼と合流し、少し最後のお話をお聞

きました。結論の結びは、地域の利用者のために活動するNPOであり、その後で行政がNPOの後ろ盾になり支援するべきである。とのこと、同感です。今のNPOは行政の指導で活動の制限を受け必ずしも利用者の立場に立っていないと思います。現在のNPOの方は、皆さん、そのように感じているのではないのでしょうか？

講演後、彼の介助のため広場に出て、まずトイレ介助ですが、私はしたことがありません。お名前は存じ上げません。ボランティアスタッフの方が助けて下さいました。ありがとうございました。模擬店でのご飯です。彼にはカレーライスです。今度は食事介助です。したことがありません。それでも彼は大きな口を開けて、一口ずつ食べました。ストローでの飲み取り口からはボタボタと漏れます。同席のテーブルの方は不思議そうに見ています。

また、仕事の電話が鳴りました。1時間程かかります。その間、スタッフの方に介助をお願いして離れました。帰って来て彼を捜すと、ボランティアの方と行列に並んでいるではありませんか。どうしたのかな？ と思って聞くと、つきたてのお餅をお母さん（私）にもらいたとのこと。でも品切れ！そこは臨機応変で裏から彼の分と私の分を頂きました。他の方にゴメン！

アトラクションもいろいろとありましたが、正直、彼がいるから見られません。まあいいか！ そろそろ帰る時間です。苑へ戻り、今日1日が楽しかったか、どうかわかりませんが、彼の口から「またお願いします。」聞き取りにくくてもその言葉はわかりました。また行こうね！

長くなりました。今後、機会があれば一人でも多く参加をしていただきたいですね。ただ、現在の心境とすればNPO法人「あかり」として限界があると思います。そのためには七尾・鹿島にボランティアを総括する組織がないです。バラバラにやるよりは、個々のNPOの考えを大事にし、組織化することがあっても良いと思います。

高齢者の方のボランティア、身体障害者の方のボランティア、有償、無償、どちらでも良いではありませんか。利用する方はどちらでも良いのです。自分の手となり、足となる方を求めているのです。希望に答えるにはどうしたらよいか、七尾・鹿島のNPOの問題だと思います。それこそ行政でなく、NPOが率先して活動をしての、行政を動かすようにならないければ、制約を受けたまま活動をしなくてはならないNPOです。1つでも良いから、積み上げる法人でありたいと思います。

第12回全国ボランティアフェスティバル石川 第11回はくい福祉まつりに参加して

七尾市・桶屋 善一

私は羽咋会場に出席しました。羽咋わたぼうし会のテントに寄ったとき、会長の宮田さん（表紙の川柳を担当）が「HSK季刊わたぼうし」を作っているのは、「この人や〜」と言って、自慢するのです。こんなにも、「HSK季刊わたぼうし」のこと思っていてくれる会長に、感謝を覚え、涙がこみ上げてきました。途中でやめなくて19年間も続けて良かったと思いました。宮田さん、本当にありがとうございます。

第12回全国ボランティアフェスティバル石川 第11回はくい福祉まつりに参加して

羽咋市・東山 春充

天気がいい日が続いていたにもかかわらず、第11回はくい福祉まつり・第12回全国ボランティアフェスティバル石川が10月12日（日）開催当日は朝から雨がぱらつくといった生憎のお天気でした。嫌な予想に反して次第にお天気が回復。

昼頃から外で母校の羽咋工業高校・羽松高校・県立看護大学の学生ボランティア達に手伝ってもらってカレンダー販売をしました。とても楽しい学生達との交流にもなってよかったなあと思っています。笑顔の絶えない販売協力、ありがとう！

「あそびの広場」・「お楽しみ広場」・「学びの広場」・「イベント広場」という風に会場であるコスモアイル羽咋周辺を大きく四つの広場に分けて盛大に第11回はくい福祉まつり・第12回全国ボランティアフェスティバルいしかわが開催され、無事に終わることができました。これも日頃のみなさんの行いの結果が現れたものだと思っています。それと同時に日頃のみなさんの行いの良さに感謝してしまいました。

また来年、はくい福祉まつりでお会いしましょう！ お疲れさまでした。

ビバ°!! 全国ボランティアフェスティバル

羽咋市・菊沢 幹子
(羽咋市社会福祉協議会)

10月11日・12日の両日、第12回全国ボランティアフェスティバル石川が県内8ブロックに分かれ開催されました。そのうちの一つ羽咋ブロックでは、11日の志賀町能登ロイヤルホテルでの『交流パーティー』に始まり、12日にはテーマ別のつどいとして3つの分科会と、『交流広場＝はくい福祉まつり』を行いました。約1年前から羽咋市・志賀町・富来町・志雄町・押水町のI市4町の社協と地元のボランティアで協力し準備を進めて来ました。

当日は交流パーティーには約250人の参加が、また12日のテーマ別のつどいには、240人近くの方が参加して下さいました。福祉の集い、はくい福祉まつりには約9,500人も参加があったことには、準備に携わったスタッフ一同、うれしい気持ちになりました。

テーマ別のつどいでは、羽咋市社協、ボランティアセンターが主催したテーマ別のつどい『福祉教育出前しま～す』では、定員を越える107名の参加を得、ニコニコ保育の実演、福祉教育ビデオの上映、谷口明広氏を囲んでのパネルディスカッションで盛り上がりました。七尾市の青山彩光苑からの参加者を前に、「羽咋市で行われている点から線、面への活動を隣の町へも広める立体への取り組みも視野にいったネットワークづくりを……」との先生のご意見に参加者一同、ナットク！！でした。

2日間を通しての参加者からは「こんなに障害者の方が自然に、明るく参加されているということは、日ごろの積み重ねの結果ですよ」「中高生をはじめとするスタッフの温かいもてなしがうれしかった」等々、全国から参加された方々のうれしい感想に、“誰もが安心して暮らせるまちづくり”を目標にさまざまな取り組みをしてきたことが、当日いろいろな場面で花開いたんだと感じました。“だれもが安心して暮らせる福祉のまちづくり”を築いていくため、確実な足がかりになったつどいだったのではないかと思う。

読者企画・食べ物談話

卵のおはなし

金沢市・秋本 信子
(管理栄養士)

栄養価の高いタマゴ料理を食べない日が無いほど、タマゴはなくてはならない大切な食べ物です。だけど、野鳥は限られた繁殖期に5～10個しか産卵しないのに、いつ頃からニワトリは一年間に250個以上も産卵するようになったのでしょうか。

今から7000年以上も昔、当時の人々はオスの野鶏が夜明けを告げる鳴き声を、太陽の恵みをもたらすものとして敬い、身近に飼うようになったのが始まりだろうと推測されています。やがて長い時をかけてタマゴをたくさん産むメスを選びすぐり、品種改良されて今日に至ったと考えられます。

なんと、約3500年前のエジプトの古文書に、毎日タマゴを産むニワトリの記録が残っているそうです。だけど一般にタマゴが安くかつ大量に出回るようになるのは、日本で養鶏産業が成長し始めた昭和30年以降のことで、まだ45年ほどしか経っていないのです。それまでは、タマゴは高価な薬に匹敵するほど貴重で、いつでも食べられませんでした。今では当たりまえのことも、何ごとでもそうですが、始めから便利であったわけではなく、少しずつ工夫をし、知恵を出し合って今日の時代を築いてきました。今、不便なことや不満なことは、次の時代を切り開く鍵なのだといえないでしょうか。

<ダチョウの卵(左)と鶏の卵>

ダチョウ牧場が各地に増えており、年間55個のタマゴを生むそうです。

われら仲間たち
NPO法人あかり

七尾市・叶田 秀子
(NPO法人あかり代表理事)

わたぼうしをご愛読のみなさん、始めまして！ NPO法人あかりの代表理事を務めます、叶田と申します。当法人の社員がいつもお世話になっています。今日、いきなり刊行誌を渡され、読んで感想文を、と、おおせつかりました。はて？ 困りました。どのようにお書きすればいいのか？ とにかく思いのままに書いてみます。

私とNPOの関わりをお話します。その先にお話したいことがあります。私の始めての子供は、身体障害児で生を受けてまいりました。7ヶ月の短い命でした。その7ヶ月の間に5回の手術を受けました。治る見込みのない手術です。それでも親という者は、何が何でもという“あかり”を追い求めているのです。

私事はこのようなものです。さて、なぜNPOなのか？です。実は、私も不思議なのです。私の世界にNPOのことなど全くありませんでした。本年の2月にいきなりこのようになり、私自身面食らっているのです。根本的に、そこに困っている人がいるとほっておけない性格なのです。俗に言う自分を犠牲にしてまでも、と、いうことです。誤解しないで下さい！ 自分でも本当に純粋に今のNPOの仕事は必要と思います。昨日でした。人手が足りず急ぎよ私まで移送のお手伝いを致しました。多分利用された方には、不安を与えたことと思います。アルプラザで慣れた社員の姿が見えましたので、居るよ！ と話した時、ニコリと笑うのですね。とても嬉しい顔でした。当社員も至らない所があるかもしれません。わがままも言います。皆さんも、負けずに我がままを言って下さい。できないときはゴメンなさい。これからもよろしくお願いします。あえて社員の名前を公表させて下さい。木下昇（ポッチ）さん。皆さんNPO法人あかりは頑張るからね！ その内良なお知らせができると思います。ご期待ください！

連絡先

〒926-0811 七尾市御祓町イ部4番地
NPO法人 あかり

2003 青山彩光苑障害者週間

12月3～9日

青山彩光苑障害者週間
実行委員長・芳原 哲弥

こんにちは～青山彩光苑障害者週間実行委員の芳原です。今回は編集者のご厚意で私たちのイベント情報を掲載させてもらいます。編集者に感謝です!! \ (^o^)/

皆さんもご存知の通り12月3日から9日は障害者週間です。私ども青山彩光苑は例年さまざまなイベント(啓発・啓蒙活動)を開催しています。

今年のテーマは『バリアのない社会を目指して～未来を担う子供たちに～』です。これからの未来を担う小さな子供たちに障害者について知ってもらいたいと思いこのテーマに決めました。ということで今年子供たちが参加するイベントが数多くあります。では週間中に行われるイベントについてご紹介します。

子供たちに向けたイベントとしてはアニメ(生命の尊厳や支えあうことの素晴らしさを伝える)の上映会や、ポスターの展示及び表彰式、よさこいの演舞会、表現会等があります。

子供たちにはイベントへの参加を通じて、障害者とふれ合い、身近に感じてもらうことが一番の目的です。もちろん楽しんでもらうことも大切ですので各イベントの担当者もあの手この手で趣向を凝らして子供たちをお迎えする準備をしています!! 子供たちの笑顔や笑い声が絶えない空間を演出しますよ～。お楽しみに～!!

その他にも地域の方に向けたイベントも盛りだくさんです!! 今回の目玉は七尾平安閣で行われる講演会です。講師にはプロの車いすダンサーの奈佐誠司さんを迎えて、ダンスを交えた講演をしていただきます。奈佐さんは18歳の時に事故で受傷して以来、車いす生活をされていますが、持ち前の明るいキャラクターでさまざまな活動を行われており、その前向きな姿勢からは障害者であることを感じさせません。是非、当日は奈佐さんのお話とダンスを見に来てください!! (～^^)～かっこイイですよ～。

それ以外にも、「支援費制度を考えるシンポジウム」や七尾市在住の障害者による講演会・福祉機器の展示会・バザー・模擬店・福祉機器発表会等さまざまなイベントをご用意しています。日程等はお問い合わせください!! かわいい声の女性スタッフがお答えするかも!? …俺も電話しよ～!!

最後に期間中には青山彩光苑の利用者や家族・職員・ボランティア等が街中で障害者への理解を求める街頭キャンペーンを行います。皆さんも街頭キャンペーンを通して自分たちを主張してみませんか? 街頭に立つ人は多ければ多いほうがいいですので…この場を借りまして参加者募集しもやいます～。興味がある方は芳原までお気軽にお問い合わせください!

【お問合せ先】

青山彩光苑障害者週間実行委員会

委員長・芳原 哲弥

0767-52-0515

shie-cen@bb.cocone.jp

マイブックスルーム

光とともに…

～自閉症児を抱えて～

戸部 けいこ著 発行所:秋田書店 定価:本体760円+税

育て方のせいにしないで……！

“自閉症についての誤解を解きたい”——そんな思いで生まれた物語です。

言葉がない、呼んでも振り向かない、皆とうまく遊べない。そんな自閉症児を持つ母親は、「あなたの育て方が悪い」と、“しつけ”や“性格”のせいにされて、よく非難されます。でも自閉症は脳機能に生まれつき問題のある発達障害なのです。

自閉症という障害が広く一般に理解されていないこともあって、自閉症児を抱えるお母さんたちの子育てになおいっそうの厳しさを与えています。もっと自然にふれあって、もっとこの子を理解して欲しい！ そんなお母さんの子育て奮闘ぶりをこの本は見事に伝えてくれました。

(神奈川県自閉症児・者 親の会連合会・氏田 照子)

編集後記

阪神タイガースの優勝でわいている日本列島。私も6月に大阪へグループホームの視察に行ったとき、阪神タイガースグッズがたくさん売られていました。

星野監督の地道な努力に拍手を送りたいし、私も星野監督を見習って、できることから一步一步行っていき、皆さんに親しまれる「HSK季刊わたぼうし」目指したいと思っています。勇気をありがとう、阪神タイガース。(Z.0)

川柳裏表紙

「優勝」の 二字に大阪 大きわざ

時事川柳としては少し古いネタになったが、星野監督就任2年目で、今年のプロ野球セ・リーグ優勝は大阪の阪神タイガースの18年ぶりに決まった。“六甲おろし”のお祭りさわざ、またあの汚れた道頓堀川へなんと300人程が飛び込んだとか…。その姿がテレビ両面に大写し、まさに狂気のバカさわざ。

一方パ・リーグの優勝は王監督のダイエーに決まり、来る18日から日本シリーズが始まる。今年の日本一は阪神か？ それともダイエー？ (H.15.10.12) (比)